



鈴木信子さん (上長尾)

宮下浩之さん (地名)

千澤文子さん (坂京)

氣田明奈さん (下泉)



上中通寿さん (徳山)

大村善彦さん (大間)

山下喜隆さん (小長井)

野口直次さん (水川)

ここに生まれて良かったと、 誰もが思えるような町に



会場を埋める大勢の来場者が見守る中
午後1時から開始された広聴会
各分野で活躍する町民8人が舞台上上がり
川勝知事と対面、意見を交わした
現在、本町が置かれている現状、将来への希望
質問もさかんに飛び交った広聴会
8人からの提案など、抜粋してレポート

わたしが提案したいのは、新規に農業をやりたいと意欲がある人が従事しやすくなる制度改革も必要ではないかということ。新規就農は手続きなど、かなり手間がかかる。聞いています。農業従事者が減っているこの時代だからこそ、やる気のある若者が農業に従事しやすい環境づくりを考えていく必要があります。

山下喜隆 木材は、再生可能な資源として、近年その価値が見直されてきています。しかしながら国産材、県産材、地域産材の消費は伸びていません。今後、伐期を迎えた森林を適正に維持管理するためにも、木材の消費拡大を図っていきたく考えます。そのためには山林の土地境界を明確にし、適正な管理を進めることが必要です。また山林に生息する鹿、カモシカ、猪、熊などの被害も増加しています。被害が発生してから対策を講じるのではなく、被害が発生する前に予防を施し、この豊かな森林を守ることを考えていかなければと思っています。

大村善彦 本町は観光資源や温泉

上中通寿 わたしは地域の子どもたちに空手の指導をしています。教室を始めたところ小学生だった子たちが、今では大学生になり社会人になり、社会の第一線で活躍している姿を見ると、とても頼もしく思います。そうした中でつくづく思うのは、小さいころからの教育こそ重要であるということ。少子化が進む本町にあって、空手教室に通う子が少しずつ増えています。礼節を学び、精神も強くなる空手。教室では一生懸命取り組む子ばかりです。将来が有望視される子もたくさんいます。しかし小・中学校と空手を続けても、そ

のあと続ける環境が少ないのが課題です。ぜひ子どもたちが大きくなっても続けていける環境を整え、青少年の健全な育成につなげられたらと思っています。

氣田明奈 わたしがこの町で暮らして思うことは、仕事が終わったあとに若者が立ち寄れる場所がないということです。仕事帰りに寄るところといえばコンビニくらい。これでは若い人たちは、どうしても島田市や静岡市などにしか出てきません。

また本町は「お茶の町」というイメージがありますが、意外と知らないことも多いのでは。いろいろなお茶を提供し、お茶のことに詳しくなれる「カフェ」のような場所があればいいと思います。お茶のことを知りながら、若者が気軽に集まることができる、そんな場所があったらうれしいです。

しみながら毎日を暮らしていかれることではないかと思えます。

千澤文子 わたしが住む坂京なんです。この地区は現在24戸・人口60人足らずの、ほとんどが高齢者の集落です。1人暮らし、2人暮らしのお年寄りが多く、家と家が離れて点在しています。このため回覧板を回すのも一苦労。地震など災害時には、陸の孤島になってしまうという心配もあります。

そんな坂京ですが、この地域をどこより愛している、林業や茶業を頑張っている人が大勢います。みんな互いに支え合い、助け合っていて暮らしています。みそやこんにゃく、そばなど、田舎ならではの食文化も豊富です。この古里の味は、地区の先輩たちに手取り足取り教えてもらった大切な味。人口が少ない坂京ですが、残していくべき大切な文化があることを誇りに思い、地区の人たちに感謝し

ながら、これからも守り伝えていきたいと思えます。平成16年にはいききサロンを立ち上げ、地区内の交流も進んでいます。行事を楽しみにしてくれる人も多く、わたしも張り合いがあります。みんな一日でも長く、元気に暮らしていけたらと思っています。

宮下浩之 わたしが心配しているのは、少子化の影響で川根高校の生徒が減少しているということ。現在進行形で生徒の減少が進んでおり、5年後・10年後が非常に心配されています。全国には中学・高等学校が一体となって教育を進めるモデルケース的な学校もあります。本町でもこういう先進的な制度を活用して、子どもたちの健全な育成を図れないかと考えています。

また地域にある保育園は現在休園となり空き施設になっていますが、ここを高齢者と子どもたちが

触れ合う場として有効活用できないかと考えています。補助金の関係などで難しいようですが、実現できたら、地区内の異世代交流もさらに進むことと思えます。

鈴木信子 わたしは地域の人たちと協力し「上長尾勝手に盛り上がる会」をつくり、毎年のお祭りに参加。みんなで一緒に楽しみながら祭りを盛り上げています。こんな小さなことでも「地域が元気になる」ということを知ったんです。お祭りのあとには、来年もやろうね」と声をかけられ、励みにしています。わたしには一つ目標があります。それはお茶を扱ったカフェのようなお店を開くこと。クリアしなければならぬ課題はたくさんありますが、ゆくゆくは氣田さんが言うような、若者が気軽に立ち寄れる、お茶のことに詳しくなれるようなお店を開くことができたらと思っています。



川勝平太 静岡県知事

ここには人の手で管理された美しい森林や、大井川の流れ、自慢のお茶がある、奥座敷としてのたたずまいを持った地域です。皆さんがお茶など、いいものを作っているのは間違いのないこと。あとはそれをどう生かすか。使い方を工夫することが必要なんです。たとえば大井川鐵道の駅周辺などにおいしいお茶が飲めたり、ゆず製品を味わえるカフェのようなお店を出すのも一つのアプローチ。どう使えば、消費者に受け入れられるのかを考えていくことが大事なんです。木材についても同様です。消費がなければ供給はできないわけですから、いかにして使うか、知恵を絞ることで活用方法は生まれると思います。

観光面では近年、グリーンツーリズムに代表される長期滞在型の観光が目立ってきています。この自慢のお茶を活用して、ぜひ「グリーン・ティー・ツーリズム」を実現させてください。農業体験など、活路はちょっとしたアイデアから生まれることでしょう。

都会では1000人が入居するマンションなどがたくさんあります。しかしたいがいは隣の人の言葉を交わしたくない、顔さえも知らないということも多い。かと思えば、坂京のように60人の地区で、互いに支え合って助け合っている地区がある。この町が一つの大きな家族のようなものではないかと思えます。高齢者が多いと言いますが、高齢ではなく「長寿の人」が多いと発想を変えましょう。この町は長寿の町なんです。それは素晴らしいことなんです。

高齢化率が県下ナンバーワンのまち。それはつまり「ふじのくに一長寿の町」ということ。誇りに思っていることだと、わたしは思います。